



茨城県建築士会
まちづくり委員会
推奨

ひとたちのくに

常陸国の むかしの家

[体感ルート・ガイドマップ] 八溝山麓編

はじめに

茨城県建築士会「まちづくり委員会」では、茨城県に残る“むかしの家”を再評価し、その魅力を多くの方に知ってもらうための「“常陸国のむかしの家”体感ルート策定プロジェクト」を、平成19年から実施しています。第2弾となる今回は、茨城県北部の八溝山麓に位置する常陸太田市と大子町、常陸大宮市を中心に据えたルートとしました。

常陸太田市・鯨ヶ丘地区は、古くからの店舗が立ち並ぶ商店街に、空き店舗を積極的に活用した新しい店舗が加わり、“いま”と“むかし”が尊重しあいながら共存する魅力的なまちづくりに成功しています。また、大子町は、風情ある木造校舎（中学校1校、廃校となった学校5校）を、非常に良好な状態で保存・活用（再利用）していることで知られます。常陸大宮市・高部地区には、多様な様式の建築が軒を連ねる趣深い通りがあり、かつての繁栄の様子を静かにいまに伝えています。

3つの地域に共通するのは、むかしの家々とそこで暮らす人々との親密な関係です。そこにはゆったりとした生活のリズムがあり、人々の自然でだらかな笑顔があります。まちづくりとは、すなわちそこに住む人たちの“笑顔づくり”であることを、このルートを通じて多くの方に実感していただければ幸いです。

茨城県建築士会「まちづくり委員会」

常陸太田
Hitachiota

大子
Daigo

常陸大宮
Hitachiomiya

八溝山脈



懐かしい木造校舎→拡大マップ p19

常陸大子駅とその周辺→拡大マップ p24-25

岡山酒造 喜雨亭・間宮邸洋館→拡大マップ p29

旧太田中学校講堂→拡大マップ p5

鯨ヶ丘商店街→拡大マップ p8-9

全体マップ

1 全体マップ

常陸太田

3 旧太田中学校講堂——近代洋風建築の秀作
百年を経てなお気高く

コラム [いばらきけんちく豆知識]

7 鯨ヶ丘商店街——“いま”と“むかし”が
笑顔で響きあうまち

6 建築家 駒杵勤治

12 黄門さま隠栖の地と
なった西山（現常陸
太田市新宿町）

10 郷土資料館——瀟洒で端正な佇まいの旧町役場

12 郷土資料館分館／助川印刷／大和田米穀店
駿河屋宮田書店／ヨネビシ醤油／カメプ呉服店
サトウスーツ／くじら屋／喜久屋／なべや商店／釜平
鯨ヶ丘ふれあい広場／和田薬局／立川醤油／Cafe 結+1
考鯨庵「萬緒喜把」／オーベルジーヌ／塩町館

17 まちの元気は
ここから生まれる！
鯨ヶ丘倶楽部
“Bonds”

大子

18 懐かしい木造校舎——木肌の感触が呼び起こす
穏やかな時間の記憶

コラム [いばらきけんちく豆知識]

20 黒沢中学校——今なお現役で活躍中
まちの自慢の木造校舎

22 大子町フィルム・
コミッションも
発足し、ますます
人気のロケ地に

21 旧槇野地小学校——伝統の素朴な味を伝える
活気あふれる観光拠点

27 陶芸家クナッパーさん
と太郎坂屋敷／
奥久慈しゃも、
果物 など

22 旧浅川小学校／旧初原小学校
旧上岡小学校／旧西金小学校

24 常陸大子駅とその周辺

26 旧外池家見世蔵——重厚な見世蔵の内部で大子の名産や軽食を

常陸大宮

28 岡山酒造 喜雨亭——詩趣ゆたかな名に宿る
かつての社交場の面影

コラム [いばらきけんちく豆知識]

30 間宮邸洋館——洗練された意匠に明治の粋が香る

31 和紙、漆／
ウェアウッドワーク、
木工房野崎／
みわ・ふるさと館
「北斗星」

32 タイムテーブル

33 茨城県建築士会について

表紙写真—大子町・旧上岡小学校
撮影—岩永 至功（茨城県建築士会まちづくり委員会）

近代洋風建築の秀作。
百年を経てなお気高く

旧太田中学校講堂

常陸太田
Hitachiota

茨城県立太田第一高等学校の正門を入り鉄筋コンクリートの校舎の裏手に回ると、威風堂々とした木造の講堂が現れます。

この講堂は明治37年に建てられた洋風建築で、国の重要文化財に指定されています。

旧県立太田中学校は、明治33年、県立水戸中学校の分校として創立。明治35年3月に県立太田中学校と改称され、翌年には校舎が、翌37年12月に講堂が完成しました。

設計は、茨城県営繕技師の駒杵勤治によるもので、この旧太田中学校と同時期、旧龍ヶ崎中学校・旧水海道中学校の三校の講堂が建てられましたが、現存するのはここ旧太田中学校のみです。

木造平屋建、切妻造の棧瓦葺き。外壁はドイツ下見板張りで、窓は縦長の上げ下げ式、窓の上には半円形の窓欄間を設けています。軒まわりは、ラインに塗り分けられた渦巻状のデザインのコーニスが周囲をめぐり、三角破風の中央には丸窓をシンボリックに配置しています。(→p6へ)

旧太田中学校 講堂

常陸太田



所在地：常陸太田市栄町58
県立太田第一高等学校内

名称：旧県立太田中学校講堂

* 県立太田第一高等学校の敷地内にあるため外からは見えません。見学や写真撮影は、必ず学校の許可を得てから行ってください。また、毎年10月中旬の数日間是一般公開されています。

管理者・問合せ：
県立太田第一高等学校
TEL.0294-72-2115

HPなどの公式情報：
<http://www.ohta1-h.ed.jp/new/index2/index2.htm>

建築用途：講堂（現在、資料館）
建てられた時期：明治37年12月1日竣工
構造・特徴：木造平屋建、棧瓦葺き



いま“と”むかし“が”
笑顔で響きあうまち



鯨ヶ丘 商店街

常陸太田
Hitachiota

文一 梶 ひろみ (茨城県建築士会まちづくり委員会)
[p8-17]

妻側の玄関ポーチには、アカンサスの葉の彫刻を柱頭飾りに載せたコリント風円柱が立ち、こちらから内部に入ると、玄関ホールと大ホールの境には3ヶ所の扉があります。大ホールの床は、正面の演壇に向かって低くなるように高さが3段に変化し、演壇上に設けられた御真影奉置所(天皇・皇后両陛下の写真を飾ったところ)は、柱やアーチなどローマ神殿風の古典的な意匠で飾っています。一見白漆喰仕上げのように見えますが、実は木製白ペンキ塗り。天井の照明器具を下げる部分の装飾(p3)は、白漆喰の美しい細工となっています。



(写真上から) 玄関ポーチにあるコリント風円柱。柱頭飾りにはアカンサスの葉の彫刻 / 講堂正面の演壇上に設けられた御真影奉置所



コラム
いばらき
けんちく
豆知識

茨城の公共建築を 多数手がけた、駒杵勤治



明治35年、東京帝国大学工科大学建築学科を半年早く繰上げ卒業後、25歳で茨城県営繕技師となった駒杵勤治は、僅か2年3ヶ月の間に県内に数多くの設計を残しています。旧商業学校本館、旧県立図書館、旧土浦中学校本館、旧麻生警察署、また、同じ設計図で建てられた旧龍ヶ崎中学校、旧水海道中学校、旧太田中学校の各講堂などがあげられます。

昭和51年2月3日、旧土浦中学校本館(現土浦第一高等学校)と旧太田中学校講堂が国指定重要文化財となり、旧商業学

校本館(現水戸商業高等学校)は一部保存されたものの、他はすべて姿を消してしまいました。



旧土浦中学校本館

常陸太田市・鯨ヶ丘商店街

江戸時代から物資の集散地として栄えた、馬の背状台地の旧市街地「鯨ヶ丘」。当時、問屋が軒を連ねた東町、西町、内堀町などには、現在でも大店（おおだな）の構えを残す町屋や土蔵造りの建物が多く見られます。

近年は空き店舗が目立つ状態でしたが、住民による再生のための話し合いが続けられ、平成18年ごろからは具体的な動きとなって空き店舗の活用が進められています。かつての賑わいとはひと味違う、自然のリズムに調和したゆったりとした散策を楽しめるまち—「スロータウン鯨ヶ丘」が、いまこの地に息づいています。



立川醤油

マンゴク醤油で知られます。店舗は築150年。→p15



郷土資料館

昭和11年に太田町役場として建てられました。当時の流行の意匠が随所に。→p10



大和田米穀店

明治末期の建物。奥行きが深く、中は意外なほど広々。→p13



郷土資料館分館

明治36年に銀行として建てられた土蔵造り2階建。→p12



和田薬局

江戸期創業。建物は明治期のもの。→p15



助川印刷

建物は明治中期の土蔵造り2階建て元は銀行でした。→p13



オーベルジーヌ

平成17年開業の本格フランス料理店。江戸末期の建物を数年かけて再生。→p17



ヨネビシ醤油

広大な敷地には、店舗のほか、工場、仕込み蔵などがあります。→p14



駿河屋宮田書店

江戸後期に建てられた鯨ヶ丘最古の町家です。→p13



サトウスポーツ

なんと、木骨鉄筋コンクリート造。大正12年に建てられました。→p14



喜久屋

手作り味噌と麴の店。→p14



釜平

昭和2年から続く味「ソースかつ丼」の店はここです。→p15



なべや商店

創業100年の老舗。建物は明治末期のもの。→p15



考鯨庵「高緒喜把」

空き店舗を改装したギャラリー。鯨ヶ丘の歴史に関する品も多数。→p16



くじら屋

空き店舗を利用して商店会が運営。名物「くじら焼」はここで。→p14



塩町館

うどん・蕎麦店。明治20年の建物が改修されました。→p17



カメブ呉服店

創業明治10年。店蔵は明治5年のもの。→p14



Cafe 結+1

平成20年にオープン。昭和初期の家具店を改装しています。→p16



鯨ヶ丘ふれあい広場

消防署跡地は、市民が集う広場になりました。→p15

金井町



郷土資料館

瀟洒で端正な 佇まいの旧町役場

江戸時代から物資の集散地として栄えた「鯨ヶ丘」。その中心に位置する常陸太田市郷土資料館は、昭和11年、太田町役場として建てられました。函館で商いに成功した旧太田町出身の梅津福次郎氏(1858～1942年)の寄付により建てられたことから、梅津会館と呼ばれています。

設計は、水戸の小林工営所 小林豊治。施工請負師は、旧県立太田中学校講堂請負師の2代目である山口子之松。当時の最新様式だった鉄筋コンクリート造2階建塔屋付、正面にはアーチの車寄せを備え、流行の意匠が随所に取り入れられた昭和初期を代表する庁舎建築と言えます。



(写真上から)2階展示室(常設展示)。役場時代は町議会場として使用された1階展示室(企画展示)／学芸員の西野 保さん。本誌の取材でもお世話になりました。

所在地：常陸太田市西二町2186

名称：常陸太田市郷土資料館(梅津会館)

* 休館は、月曜日及び年末年始(12/28～1/4)。ただし、月曜日が祝祭日にあたる場合は、翌日の火曜日が休館日。

管理者・問合せ：

郷土資料館(梅津会館)

TEL.0294-72-3201

HPなどの公式情報：

<http://edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/museum/index.htm>

建築用途：役場(現在、資料館・会議室)

建てられた時期：昭和11年竣工

構造・特徴：鉄筋コンクリート造2階建塔屋付

外壁は、現在割れや剥落が目立つものの、建物全面が縦にスクラッチの入ったタイル貼りとなっています。窓枠は、アルミ製に改修されていますが、一部スチール製の当時のものが残されています。また、階段室は地元で採石された大理石の一種「寒水石」が使用されており、巧みなデザインと当時の石工の技をうかがうことができます。

現在、1階は特別展示室、2階が郷土資料の常設展示室となっていますが、当時は2階に議場があり、昼夜を問わ



スクラッチ模様入りのタイルと一部残るスチール製の窓枠
地元で採れた大理石(寒水石)を贅沢に使った階段室

ず各種の会議や会合に頻繁に使用されていたようです。

平成11年、国の登録有形文化財となっています。

郷土資料館分館

常陸太田市郷土資料館（梅津会館）の敷地北側に位置する分館は、明治36年に旧太田共同銀行として建てられた土蔵造りの建物です。その後いくつかの

金融機関の店舗として利用され、現在、郷土資料館分館として公開されています。外壁は漆喰

土蔵造りの旧銀行

になまこ壁。鉄枠の入った観音開きの窓や、当時のままの鬼瓦、内部には銀行で利用されていた金庫などが残されており、江戸時代からの間屋を中心とした商業活動の発展を支えてきた建物として全てが展示資料と言えます。



助川印刷

土蔵から響く印刷機の音色

郷土資料館分館と同様、助川印刷の土蔵も、明治中期の銀行建築のひとつ。屋根・外壁は補修工事が施され、当時の工法とは異なりますが、今も美しい状態を保っています。



大和田米穀店

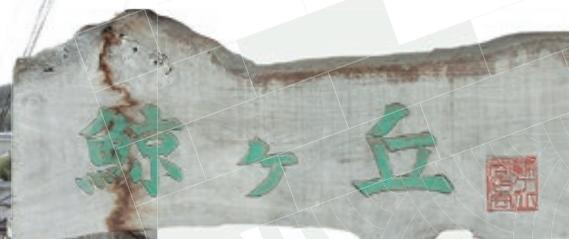
店先のカラフルな陳列も魅力

創業は江戸後期。間口3間、奥行13間、鯨ヶ丘の傾斜地を利用して建てられたこの建物は、明治末期のもの。道路に面した店舗部分は平屋建ですが、奥に行くにしたがって低くなる敷地に合わせ、一番奥は2階建となっています。天井を高くするために小屋組



小屋組みが見える店内。意外なほど広い

みを見せており、店内に一步足を踏み入ると、外からの印象とはがらっと異なる広々とした空間が広がっています。



鯨ヶ丘倶楽部 Bonds 製の看板 (→p17)

駿河屋宮田書店

創業は江戸時代！
まちの名物書店

鯨ヶ丘で最古の町家と言われる宮田書店は、江戸後期の文化7年（1810年）に建てられた店蔵と住居、奥の蔵からなります。創業当時から本を扱っており、江戸時代には絵草子なども売られていたとのこと。土蔵造りの店舗2階は書庫（現在は倉庫）として使われており、土戸を用いた窓と格子が特徴となっています。店舗内部は昭和



初期に改装され、アーチ状の天井や照明器具、陳列ケースや地図を収納した引出しなど、当時のまま今も大切に使われています。



(写真上) アーチ状の天井は昭和初期の改装時のもの／(写真下) 広い間口に創業時の豊かさがあらわれる

黄門さま隠栖の地となった西山（現常陸太田市新宿町）

コラム
いんげん
豆知識

徳川光圀は、元禄3年（1690年）63歳の時に水戸藩主の座を退き、翌元禄4年5月9日、西山（現常陸太田市新宿町）に山荘を造り隠栖、晩年の10年を過ごしました。当時の西山荘は現在のものより建坪も大きく、家臣も数十名はいたと言わ

れ、光圀はそこで「大日本史」の編纂にあたりました。初代藩主 徳川頼房以降、水戸家の墓所が瑞龍山（現常陸太田市瑞龍町）に定められたことから、太田の地が水戸藩政のなかで重要な位置を占めていたものと考えられています。



常陸太田

鯨ヶ丘商店街



カメブ呉服店

白看板と日よけテントが目印

明治10年創業。明治5年に建てられた店蔵と住居の奥に、明治19年に建てられた土蔵が。戦後備えられた看板と縞の日よけテントが、独特の懐かしく愛らしい雰囲気醸しだしています。



鯨ヶ丘ふれあい広場(くじら広場)

親子くじらの背中での〜びのび

平成14年、茨城県建築士会が主催した「消防署跡地利用を考えるワークショップ」を機に、市と住民が協働して検討を続け、平成20年に完成。夜市や季節の祭りなどが開催され市民で賑わいます。



和田薬局

いまま馴染みの薬の名が看板に

軒先に掲げられたたくさんの薬の看板が楽しい和田薬局は江戸後期の創業。土蔵造2階建の建物は、ほとんど手が増えられておらず、間取りや太い梁に当時の様子が伺えます。

釜平

甘くて柔らかい「ソースかつ丼」

鯨ヶ丘といえば、これも忘れられない名物！一度食べたらずみつきになりますよ。



なべや商店

創業当時の道具で作る名物ちまき

「太田ちまき」を製造販売している創業100年の老舗和菓子店。明治末期に町役場として建てられた木造2階建て、その後、鍋屋家が買い取り粽(ちまき)屋を始めました。かまど、戸棚や菓子を入れる木箱まで、創業当時のものが今もなお活躍。菓子の種類も豊富で、夏にはかき氷も登場します。



立川醤油

築150年の凛とした佇まい



江戸期より酒や醤油の醸造・販売をしてきた立川家。安政6年(1859年)の大火の後、仮普請として建てられたという築150年の店舗は、平成20年に保守改修さ

れました。醤油やせんべいの販売のほか、ギャラリーコーナーもでき、江戸時代のお弁当箱や菓子箱など昔の生活道具を見ることが出来ます。

ヨネビシ醤油

さながら醤油の博物館！

舞鶴橋を上りきったところにある、美しい縦格子が一際目を引く木造2階建ては、明治26年(1893年)に建てられた米菱醤油(株)の店舗です。その奥の広大な敷地には

母屋、蔵、瓶詰め工場、仕込み蔵の他、南側には塀を兼ねた全長60mの大谷石の長屋があります。各種商品の購入はもちろん、蔵元見学もできます。

サトウスポーツ

葉たばこ問屋時代の面影が残る

かつて鯨ヶ丘は、たばこの集散地として賑わっていました。葉たばこ問屋だったこの建物は、戦後運動具店となりました。店蔵・袖蔵はともに大正12年(1923年)6月に上棟、その年の9月に関東大震災があつ



たことから設計が変更されたようで、当時では珍しい木骨鉄筋コンクリートの壁に漆喰塗り、屋根も瓦ではなく銅板葺となっています。

くじら屋

この地に来たらまずは「くじら焼」から！

空き店舗活用のため鯨ヶ丘商店会が始めた店。名物「くじら焼」を販売。外壁には、明治のこの地のまち並みの様子が描かれています。



喜久屋

「本業は味噌屋です！」



自家製味噌・麴のほか、店内には竹細工・陶芸・籐・さき織り・こぎん刺し…などが並びます。店主の渡辺 彰さんは鯨ヶ丘商店会の会長を務める方。世代をつなぎ、さらなるまちの活性化に奔走される日々です。

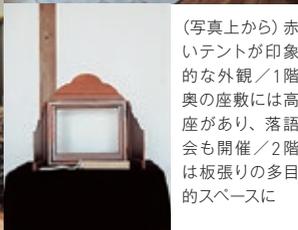
Cafe 結+1

リニューアル

鯨ヶ丘を愛しむ気持ちで再生

赤いテントが目印のカフェ。結婚や仕事が縁で常陸太田市にやってきた女性8人が立ち上げメンバーとなり、“女性”をキーワードに、人のつながりを作り出す場として平成20年3月にオープンしました。建物は、昭和初期に家具店として建てられた木造2階建の店舗兼用住宅。長い間空き店舗となっていたが、鯨ヶ丘の風情を残しつつリニューアルされ

ました。土間だった1階店舗部分は、板張りのテーブル席とオープンスタイルの厨房になり、住居だった1階の奥と2階は、作品展や講座、落語会、子育てを応援するイベントなどを開催する多目的なスペースとして賑わっています。美味しいケーキとコーヒーに加え、2階の窓からは、向かいの蔵など鯨ヶ丘ならではの懐かしい風景が楽しめます。



(写真上から) 赤いテントが印象的な外観 / 1階奥の座敷には高座があり、落語会も開催 / 2階は板張りの多目的スペースに

1階店内。天井や柱などは以前の家具店のものが活かされている



こうげいあん ぐうちよきばー

考鯨庵「寓緒喜把」

この地の歴史と風情を楽しむ

不動産業を営むオーナーが、仕事柄集まってくる古い道具などの民俗資料を展示しようと、空き店舗をリニューアルし開設したギャラリーです。鯨ヶ丘の歴史を学び、



奥に長く続く店内には、ノスタルジックな品々が並び、思わず時間を忘れて見入ってしまう

それをまちづくりに活かすことを考えていこうと名付けた“考鯨庵「寓緒喜把」”。鯨ヶ丘が集散地であった「水府たばこ」に関する資料も数多く展示されています。

オーベルジース

江戸末期の建物で味わう本格フランス料理

江戸末期の元治元年(1864年)、木綿・繭問屋として建てられた木造2階建。かなり傷んだ状態でしたが、平成13年から再生工事が施され、平成17年に、東京都港区に本店を構えるレストランの

支店としてオープン(オーナーシェフは旧十王町出身)。漆喰壁や格子戸が印象的な日本家屋の内部には、落ち着いた洋風インテリアの空間が広がり、本格フランス料理を贅沢に味わうことができます。



塩町館

うどん・蕎麦は明治の和洋折衷様式建築で

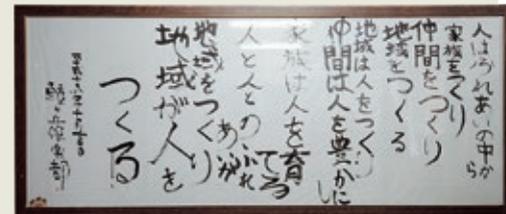
明治20年(1887年)、旧太田銀行として建てられた和洋折衷様式の木造2階建。県立太田第二高等学校の前身、太田高等女学校の寄宿舎だったことも。お隣(オーベルジース)と同時期に改修工事が進

み、現在は常陸太田市天下野にある「慈久庵」(店主は粗挽き蕎麦の第一人者)の姉妹店として、地元食材を使ったうどん・蕎麦を供しています。吹抜けからは当時のままの柱や梁を見ることができます。

まちの元気はここから生まれる!

鯨ヶ丘倶楽部 “Bonds (ボンズ)”

鯨ヶ丘商店街の応援団として結成された「鯨ヶ丘倶楽部」の拠点が“Bonds”です。「茨城県がんばる商店街活性化支援コンペ」でグランプリをおさめた平成19年から本格始動し、長い間空き店舗となっていた大型洋品店を、自分たちの手でダンススタジオにリニューアルオープンさせました。その後も祭りや夜市などを次々と仕掛け、鯨ヶ丘をさらに元気にしようと日々奮闘しています。



子どもたちがひとり一文字ずつ書いた、鯨ヶ丘倶楽部の「理念」



広い空き店舗を自分たちの手で改装

立派なスタジオで大人も子供もダンス!



木肌の感触が
呼び起こす、
穏やかな時間の記憶

懐かしい木造校舎

大子
Daigo

文一 岩永 至功 (茨城県建築士会まちづくり委員会)
[p19, 21-23]



大子町の木造校舎



旧榎野地小学校



黒沢中学校



旧浅川小学校



旧初原小学校



旧上岡小学校



旧西金小学校

下見板張りの外壁、格子窓と平面ではない窓ガラス、ぞうきん掛けで黒光りした床板、二宮金次郎の像…。一度も通ったことがなくてもなぜか懐かしく感じる木造校舎ですが、最近では老朽化、学童の減少による統廃合などの理由でほとんど見かけなくなりました。しかし、大子では廃校になった小学校がふれあい交流の場、生涯学習の場として大事に活用されています。八溝山をひかえる県内の林業の中心地である大子らしく、木を大事にする心が背景にあるのかもしれません。

大子 懐かしい
木造校舎



黒沢中学校

今なお現役で活躍中。
まちの自慢の木造校舎

大子町立黒沢中学校

大子町立黒沢中学校は昭和26年、当時の黒沢村立の中学校として現在地に建てられました。建物は現在では貴重な木造校舎で、当時の黒沢村の威信をかけた建物であったということです。現存して使用されている木造の中学校としては大変貴重で、現在も定期的に修理が行なわれており状態良く保たれています。外壁は横板張りとし、窓は枠・棧ともに白く塗られハイカラな印象を受けます。なお同校には昭和30年に建てられた講堂も残されています。

所在地：大子町上郷2601
校地面積：19,343㎡
建物延床面積：2,046㎡
創立：昭和26年
*見学や写真撮影は、必ず学校の許可を得てから行ってください。



板張りが気持ちよい、清々しい空間

旧槇野地小学校 (現大子おやき学校)

伝統の素朴な味を伝える
活気あふれる観光拠点

この地域では、古くからおやきを食べる風習があったことから農林水産省「山村振興等農林漁業特別対策事業」による整備により、第3セクター「大子おやき学校」としてリニューアル。文部科学省「廃校リニューアル50選」に選ばれました。

所在地：大子町大字槇野地2469
校地面積：4,483㎡
建物延床面積：867.9㎡
創立：明治7年
廃校：平成8年3月31日



たくさんのおやきが味わえる





旧浅川小学校

現在、私学「ルネサンス通信単位制高等学校」として利用。

所在地：大子町大字浅川 1253
校地面積：7,691㎡
建物延面積：970㎡
創立：明治6年11月23日
廃校：平成13年3月31日



旧上岡小学校

地元有志による「上岡小跡地保存の会」により地域の活性化と生活文化向上を目的に管理を含め活用。

所在地：大子町大字上岡 957-3
校地面積：7,341㎡
建物延面積：958㎡
創立：明治12年4月20日
廃校：平成13年3月31日



旧初原小学校

地元初原区が町から管理を受託。現在、初原ぼっちの学校事務局により農と食の学校「初原ぼっちの学校」として合宿所などに利用。

所在地：大子町大字初原 960
校地面積：3,515㎡
建物延面積：770㎡
創立：明治6年6月10日
*現存の校舎は、昭和17年5月完成
廃校：平成7年3月31日



旧西金小学校

現在、教育委員会「教育支援センター」として利用。

所在地：大子町大字
西金 250
校地面積：11,922㎡
延床面積：1,371㎡
創立：明治5年8月5日
廃校：平成17年3月31日



コラム
いはらき
けんらく
豆知識

大子町フィルム・コミッションも発足し、ますます人気のロケ地に

茨城にはロケ地が多くあります(平成20年度の茨城県内のロケ支援作品数は、357作品)。その中で、大子の木造校舎群はレトロな学校のシチュエーションには必ずといっていいほど使われる人気のロケ地になっています。

中でも旧上岡小学校は多くの映画、ド

ラマ、CMに使われています。撮影のため全国から集められた備品もさらにいい雰囲気づくりに役立っています。

これらの校舎や豊かな里山の風景を生かし、ロケ地としての誘致を進める「大子町フィルム・コミッション」も2008年7月に発足しました。

p22-23で紹介している木造校舎は基本的に見学可能ですが、見学や写真撮影をする際は、必ず各施設内の管理者に許可を取って行ってください。管理者不在の際は見学不可となります。詳しくは、大子町役場企画観光課(裏表紙参照)にお問い合わせください。

常陸大子駅は昭和2年に開業し、その後昭和9年に水郡線全線が開通しました。大子地方は鉄道によって徐々に近代化を進めていきます。

常陸大子駅から金町通りに向かって伸びる本町通りと栄町通りには昭和の戦前戦後にかけて建てられた建物が連なり「昭和の駅前通り風景」が感じられるまちなみを形成しています。



ひなまつり
(百段階段)

平成20年から開催されている「日本一のひな祭り」。何が日本一かといえば、その「段数」で、十二所神社の百段の階段すべてにおひなさまがぎっしりと並べられます。ひな人形は、周辺住民から寄贈されたものばかり。3月3日前後の晴天の日曜日に1日だけ開催されています。当日は、甘酒なども振舞われ、見物客で賑わいます。

だいご文



果物野菜・ウチダ

一見コロナ風?! と見違えてしまうようなつくりの青果店ウチダ。カラフルな店名もキッシュな味わいを醸し出しています。



文武館文庫

本町通りの北側、すこし小高い場所には水戸藩の郷校が置かれていたときの建物が県内で唯一残されています。建物は「大子郷校文武館」の施設として嘉永3年(1850年)に建てられた置屋根形式、白漆喰塗土蔵造りで腰壁部分を海鼠(なまこ)壁としている「文庫(書籍などの資料保管庫)」です。町誌に写る写真では板張りの外壁となっていますが、これは壁が剥落した後の写真らしく、元は現在のように土蔵造りであったということで、移築復元されています。

28



街かど美術館

その名のおり本町と金町の「まちかど」に位置する「街かど美術館」は、取り壊し予定であった大正6年建築の「旧大子銀行本店」(その後、第五十銀行→常陽銀行大子支店→生命保険会社社屋)を、現在の所有者夫妻が「壊されたくない」と私財を投げ打ち、私設美術館として開放しているものです。内・外部ともかなり改装を受けていますが、入り口両端の柱(オーダー)や三角形の破風飾り(ペディメント)、コーナー塔屋に載るドーム屋根にルネサンス風の古典的意匠が見られ、町のランドマークとして威容を誇っていたかつての姿が見て取れます。



常陸大子駅駅舎

開業の前年に当たる大正15年に竣工しています。木造一部2階建てで外観や内部の平面構成(待合や改札の形状)にいまも当時鉄道省で規格化されていた標準駅舎の形式が見てとれます。



駅前ロータリーには、水郡線開通に尽力した根本正の胸像が。

水郡線

大子
Daigo



浅野タバコ店

窓枠の繊細な細工が目目を引くタバコ店。店先に漂う懐かしさが、昭和のノスタルジーを伝えます。



北条館

貴族を感じさせる堂々とした佇まいの旅館。食事だけでもOK、評判のうなぎ料理が楽しめます。



旧樋口医院

昭和5年建築、木造2階建て切妻屋根に洋瓦を載せています。全体的に簡素な意匠でまとめられた外観は正面上部につけられた十字形の小屋裏換気口や縦に3分割されたシンメトリーのファサード、2階両端の出窓など医院建築としての特徴を感じます。



だいごレトロ館

豪壮な見世蔵を利用した大子町の情報ステーション。→p26



菊屋旅館

創業120年の旅館。久慈川で釣れた天然鮎や地元名産のシャモの料理や元祖「りんご風呂」が楽しめます。

常陸大子駅とその周辺

と の い け 旧外池家見世蔵

(現だいごレトロ館)

重厚な見世蔵の内部で 大子の名産や軽食を



2階正面は観音扉の窓が入ります。

正面の縦格子は改修時に取り付

けられたもので当初はなかったそうです。

外観は大子駅周辺に残る建物の中で重厚さは群を抜いています。平成14年に中心市街地活性化事業の一環として地域の特産物や情報案内所としての役割を持つ「だいごレトロ館」としてオープンし、その後民間が軽食や土産物を扱う店として経営を続けており、豪壮な内部空間を体感しながら寛ぐことができます。

所在地：大子町大子624
建築用途：呉服商、商店
建てられた時期：明治29年
構造・特徴：見世蔵形式

旧外池家見世蔵は^{かねまち}金町通りに位置しています。現所有者で4代目の外池宇一郎さんによれば、明治から昭和にかけて“ヤマキ”の屋号で呉服商をはじめ、造り酒屋や塩、肥料などを扱う「近江屋外池商店」「外池商店」として商売をしていたそうです。

中引き梁の墨書に“明治29年上棟”の銘がある見世蔵は、腰壁以外の外壁正面と妻面2階部分を黒漆喰塗り（妻面について、昭和60年代に描かれた絵画では現在と反対で、妻面上部を白漆喰塗りに描かれています）とし、1階の北側側面には黒漆喰塗りの観音扉戸が付きます。

陶芸家クナッパーさんと太郎坂屋敷

郷土が毓んできた文化を愛してやまない人物がいます。

陶芸家ゲルト・クナッパー（GERD KNAPPER）さんは昭和41年（1966年）にドイツから来日後、瀬戸や益子で修業を重ね昭和50年（1975年）に、今にも壊れそうな築100年以上たつ空き家（茅葺民家）を買い取り、同所裏手に築窯（窯をつくること）しました。住まいをはじめ屋敷内の建物は職人の協力を得ながら自身で構造美を生かした改装を施し、ご家族で住まわれています。

平成19年（2007年）には長屋門内部をギャラリー（ゲルト・クナッパー・ギャラリー）に改装・オープンしました。

クナッパー邸の見どころは自然とともにある茅葺民家の姿です。

クナッパーさん家族は、大子地方に伝わる直家（すごや）形式の民家を、建物の

みでなく周辺環境も視野に入れながら地域の大切な文化資産と捉え、作陶に励みます（それこそが今失われつつある「自然を敬い生活に組みこんできた」我々日本人の大切な文化だったはず）。クナッパーさんが生み出す造形のしっかりした器は建物や彼の生活スタイルと相まって地域に溶け込み、私たちが見失ってきた伝統文化の大切さを思い起こさせてくれます。

ちなみに「太郎坂」というのはもともとこの屋敷につけられていた屋号です。



棚田や裏山と一体となった佇まいが美しい太郎坂屋敷
写真提供：ゲルト・クナッパー・ギャラリー

「奥久慈しゃも」を筆頭に、 食通を唸らせる特産品がたくさん！

突然ですが、皆さんは大子にミシュランの味があるのをご存知でしょうか。

『ミシュランガイド東京2010』において、焼き鳥部門で初の星を獲得した銀座「バードランド」で使用される鶏肉こそ、大子の名産である「奥久慈しゃも」なのです。

大子町では、町内50近くのお店（2010年3月現在）が、世界のグルメを唸らせるこの素材「奥久慈しゃも」を使った料理



あのミシュランガイドにも認められた味です！



を提供しています。

そのほかにも、りんご、ぶどう、こんにゃく、ゆば、そば、茶など、特産品が非常に豊富な“美味の町”大子なのです。

詩趣ゆたかな 名に宿る、かつての 社交場の面影

岡山家は高部地区の旧家として、古くは紙問屋を営んでおり、その後永らく造り酒屋として商いをしてきました(現在は廃業)。

門横に建つ3階建の櫓は、伝聞によると明治期に現当主亡夫の祖父が建て、当時は町内の社交場として利用していたそうです。

「喜雨亭」という、杜甫の詩『春夜喜雨』からとった名称からもわかるように、文人好みの繊細な意匠は祖父が水戸の好文亭を参考にしたというだけあり、室内からの景色を考えた作庭も見事です。3階壁、庭に面した面は明治期に流行した色ガラスがはめ込まれ、道路から見える他の三面は、高さを生かし、「花の友(酒名)」の文字が壁に書かれています。

平成に入って一部改修をしていますが、保存状態もよく、当時の面影が残る貴重な建物といえます。



庭に面した側の3階には当時流行した色ガラスが使われている



所在地: 常陸大宮市高部地区
建築用途: 社交場
建てられた時期: 明治40年ごろ
構造・特徴: 木造3階建
*個人宅ですので内部の見学は不可です。
写真撮影や敷地に入つての見学は必ず岡
山家から許可を取った上で行ってください。



岡山酒造 喜雨亭

常陸大宮
Hitachiomiya



洗練された意匠に 明治の粋が香る 間宮邸洋館

「見越しの松」も見事な間宮邸はかつて林業を生業とし、同時に金融業も手掛けていたそうです。

明治35年に建てられた(伝聞)3階建の洋館は、当時、1階を金融業(黒羽銀行の支店であったといわれています:伝聞)、2~3階を住居として使用していたそうです(住居部分は後に遊興の場として使用していた時期もあるとのこと)。

外観は1、2階を横板張り、3階を漆喰塗りとし、上げ下げ窓や色ガラスを用いた窓、入り口周りの円柱や練り形

などが確認できます。また、洋館の奥に和風建物がある和洋併用住宅の形式を含め、高部地区はもとより、県内においても明治期の流行を取り入れた数少ない貴重な建物です。

所在地:常陸大宮市高部地区
所有者:間宮信行氏
建築用途:店舗(1階)、住居(2、3階)
建てられた時期:明治35年
構造・特徴:木造3階建
*個人宅です。敷地の外からの見学のみ可。写真を撮影する場合は必ず間宮家に許可を取ってください。内部の見学は不可。

建築素材として再び注目される名産の“和紙”と“漆”

常陸大宮市西ノ内地区の手漉き和紙「西ノ内和紙」は、江戸時代に水戸や常陸太田の紙問屋で扱われ、そこから江戸へ運ばれていきました。水戸光園公が大日本史編纂の用紙として用いていたことでも知られます。江戸末期には、常陸大宮市高部地区でも和紙漉きが盛んになり、岡山家(p29)も古くは和紙問屋をしていました。丈夫で水にも強い西ノ内和紙は、工芸品や建築素材としても用いられています。

一方、奥久慈漆も、常陸大宮市山方地区や大子町で栽培・採取されており、生産量はなんと全国2位。品質的にも高い評価を受けています。県内の漆職人を中心に、漆の魅力を伝えて技術を守る活動も盛んで、器だけでなく、家具や建築にも積極的に活用されてきています。



漆掻きの様子

コラム
いばらき
けんりく
豆知識

地元材を使った味わい深い“手づくり家具”

かつて旧美和村(現常陸大宮市美和地区)では「美和工芸ふれあいセンター」を開設し、地元の桧を使用して器などの工芸品を開発・生産してきました。当時生産・指導に携わったお2人が、現在も美和地区に工房を構え、地元木材や奥久慈漆を使って家具や器などを作り続けています。



美和工芸ふれあいセンター

(有)ウェアウッドワーク
辻 徹さん
常陸大宮市上檜沢
2032
TEL 0295-58-3880



辻さんと作品の器・家具

木工房 野崎
野崎 重仁さん
常陸大宮市高部
5278
TEL 0295-58-2115



野崎さんと作品の椅子

大きな“しいたけ”など名産がいっぱい みわ・ふるさと館「北斗星」

八溝の山々に囲まれた緑あふれる常陸大宮市美和地区は、杉や桧の木材産地である他、原木しいたけやそば粉、地元野菜など特産品も多く、道の駅「北斗星」は、オープンした15年前から変わることなく多くの買い物客で賑わっています。開設



道の駅「北斗星」には、原木しいたけ(右上)など新鮮な地元野菜が揃う。蕎麦など食事でもできる



当時からのスタッフが多く、いつも暖かく迎えてくれるところも魅力のひとつです。

タイムテーブル

- この冊子でご紹介している「むかしの家々」を1日で巡るタイムテーブル案です。
- 発着地には、常磐自動車道的那珂ICにほど近い那珂市役所を設定しました。また、各時間を算出する際の移動手段は普通乗用車を前提としています。*大型車・大人数の場合は、所要時間が増すことが予想されます。
- 1日で巡るルートとしては、目的地がやや多めの設定になっています。より余裕を持った見学をご希望の方は、この案をもとに日程や見学地の数などをご調整ください。
- 大子の木造校舎については、所在地が広域にわたるため、黒沢中学校と旧槇野地小学校(大子おやき学校)の2校を巡る設定としています。
- 冬季に巡る際はなるべく早めにスタートしましょう。*日の入りが早く、17時には暗くなりますよ。

見学地	見学時間	移動時間(距離)	時刻(ご参考)
那珂市役所			9:00 出発
		↓ 20分(14km)	
 旧太田中学校講堂	40分		9:20~10:00
		↓ 5分(2km)	
 郷土資料館	35分		10:05~10:40
		↓	
 鯨ヶ丘商店街	60分		10:40~11:40
		↓ 90分(57km)	
 旧槇野地小学校	20分		13:10~13:30
		↓ 10分(6km)	
 黒沢中学校	20分		13:40~14:00
		↓ 15分(9km)	
 常陸大子駅周辺 だいがれトロ館	55分		14:15~15:10
		↓ 40分(23km)	
 喜雨亭・間宮邸	20分		15:50~16:10
		↓ 50分(34km)	
那珂市役所			17:00 終了

合計: 約8時間 (見学時間: 約4時間10分/移動時間: 約3時間50分)

社団法人茨城県建築士会について

社団法人茨城県建築士会は、茨城県内に居住または勤務する建築士を中心に構成されている組織です。会員同士が協力し合い、建築士の業務の進歩改善と建築士の品位の保持、向上を図り、建築文化の進展に資することを目的に、社会に対する活動と会員相互の交流活動を行っています。

組織の中には、会としての目的達成と事業活動の効率化のために委員会が設置されています。わたしたち「まちづくり委員会」では、一般の方を交えてのワークショップ、シンポジウムを実施するなどして、住みよいまちづくりに寄与する活動を行っています。

*本会は茨城県より景観法に基づく「景観整備機構」の指定を受けています。

常陸国のむかしの家

〔体感ルート・ガイドマップ〕 八溝山麓編

発行 社団法人 茨城県建築士会
 会長 柴 和伸
 〒310-0852
 茨城県水戸市笠原町978-30
 建築会館2階
 TEL.029-305-0329
 FAX.029-305-0330
 Eメール kyy05413@nifty.com
<http://homepage1.nifty.com/ishikai/>

協賛 財団法人 茨城県建築センター
 編集 茨城県建築士会 まちづくり委員会
 武村 実/石坂 健一/大高 昇/小池 祐市
 小林 澄夫/小谷野 栄次/梶 ひろみ/島田 哲/江面 松男/杉田 次夫/中崎 妙子
 中山 和朗/篠根 玲子/加藤 誠洋/池田 洋/岩永 至功/李 相鉄

協力 安藤 昌俊(茨城県立太田第一高等学校)/西野 保
 (常陸太田市教育委員会文化課)/渡辺 彰(鯨ヶ丘商店会)/益子 政男(大子町観光ボランティア)/
 菊池 均(茨城県建築士会久慈支部) *敬称略

デザイン 有限会社 平井情報デザイン室

初版発行 平成22年3月30日

*この冊子に掲載した情報は平成22年3月現在のものです。



旧太田中学校講堂に関するお問合せ

茨城県立太田第一高等学校 TEL.0294-72-2115

〒313-0005 茨城県常陸太田市栄町58



郷土資料館（梅津会館）に関するお問合せ

常陸太田市郷土資料館（梅津会館） TEL.0294-72-3201

〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2186



鯨ヶ丘商店街に関するお問合せ

常陸太田市商工会 TEL.0294-72-5533

〒313-0061 茨城県常陸太田市中城町3210



大子町の木造校舎／常陸大子駅周辺の商店街に関するお問合せ

大子町役場 企画観光課 TEL.0295-72-1138

〒319-3526 茨城県久慈郡大子町大字大子866



黒沢中学校に関するお問合せ

大子町立黒沢中学校 TEL.0295-77-0631

〒319-3703 茨城県久慈郡大子町大字上郷2601



常陸大宮市高部地区に関するお問合せ

常陸大宮市役所 美和総合支所 TEL.0295-58-2111

〒319-2601 茨城県常陸大宮市高部5281-1



西ノ内和紙・奥久慈漆に関するお問合せ

常陸大宮市役所 農林課 TEL.0295-52-1111

〒319-2265 茨城県常陸大宮市中富町3135-6



常陸大宮市高部地区の農産物に関するお問合せ

みわ・ふるさと館「北斗星」 TEL.0295-58-3939

〒319-2603 茨城県常陸大宮市鷲子272



発行：社団法人 茨城県建築士会

協賛：財団法人 茨城県建築センター